

2021年 3月 5日

広島大学長
越智光夫殿

広島大学教職員組合
執行委員長 河西英通

「教員人事制度の一部見直しに関する全学説明会」に対する組合要求（その1）

貴職の奮闘と当組合活動へのご理解とご協力に敬意を表します。

さて、標記について「3月9日（火）16:00～17:00に全学説明会をZOOMによるオンライン開催（参加人数は先着300名まで）、参加できなかった他の方は後日録画の視聴」という案内をいただきました。つきましては、以下を申し上げます。

1. 全学説明会の持ち方について

案内には「令和2年4月1日から施行した学内昇任制度及びテニユアトラック制度について、これまでの人事委員会及び学術院会議で出された意見及び自己推薦申請者を対象とした面談での意見等を基に、人事委員会で次年度に向けた取扱いについて検討を進めてきました。」とあります。当該2つの制度は2018年12月から2019年2月の交渉において当組合の反対の中、2019年4月から設定されたものです。文部科学省対応のため「まず箱をつくって中身はあとから」と大学は繰り返され拙速感はありませんでしたが、構成員からは手順が逆だと大きな批判があったことはお忘れではないでしょう。特に広島大学独自の内容が多く、他大学や国外には通用しない内容が含まれていました。ある一部の部門に導入し、徐々に検証し広めていくならまだしも、いきなり全学に反映させることは、広島大学内に限らず、他大学の状況を無視して進めることになり、広島大学から出た者の受け入れ先の面から流動化を謳う以上、大きな懸念がありました。また、これは個別教員のキャリアの想定を大きく覆すものです。その上で設定された制度はいまだ構成員に十分理解されていません。まずはその設定された制度そのものを説明され、その上でこのたびの改定（案）をご説明願います。つきましては、当日は1時間の設定ですが、田中副学長がご退席なさる等、事情がありでしたら、残りは別の役員が引き受ける等の配慮をされ、質疑の延長をお願いします。

なお、少なくとも学部長も内容をきちんとわかっていない状態で大学執行部も生煮

えのまま提案されており、説明できる体制になっていないのではと懸念しております。大学執行部自体が回っていないことが問題です。これでは、皆の時間や労力を費やすばかりの状態を脱せられません。そろそろ、このやり方そのものを考えてほしいことを申し添えます。

2. 制定時の組合からの疑問について

質問 1.

「テニュアの教授をどれくらい確保されるのか」について

- ① 2020 年の試算、2022 年の試算、2024 年、2026 年、2028 年の試算
- ② ①における総計人数の推移
- ③ ①における各職位の人数推移
- ④ ③はテニュアトラック教員・テニュア教員の区分ごと記載要

質問 2.

「中間、及び最終審査を必要とするテニュアトラック教員がどれだけ配置され、毎年どれくらいの審査要件（必要となる審査案件数）があるのか」について

- ① 2020 年雇用の助教、准教授がいつ中間審査、及び最終審査にかかりそれぞれの年度の審査件数がどれくらいになる予定か。
- ② 次年の 2021 年以降に雇用されたテニュアトラック教員を順次加えていくとどのくらいの審査件数が定常的に発生するのか。

質問 3.

人員措置ポイント使用に関する基本的な考え方とテニュアトラック教員のテニュア定着率についての見込み

以上の質問は 2018 年 12 月 26 日協議において提示した組合の疑問です。「人員データ等の提供依頼（2018 年 12 月 27 日）」。これについては、明確な回答はいただけていませんので改めて質問します。またこうした質問をするに至った経緯を参考資料として、以下に示します。今一度こちらの文書もご確認いただき、具体的な数値について回答を求めます。

なお、2020 年のものについては試算ではなく、結果をお示しください。

【参考資料 1】

「テニュアトラック制度改定と学内昇任制度について交渉中」

●2018 年 12 月 25 日 組合意見及び要求書

https://union.hiroshima-u.ac.jp/pdf/181228_01.pdf

「学内昇任制度について」

●2019 年 2 月 19 日 組合要求書

<https://union.hiroshima-u.ac.jp/pdf/190219.pdf>

【参考資料 2】

- 1) 第 120 回団体交渉資料 7 「教員の採用・退職・キャリアパスイメージ」
- 2) 部局長等意見交換会 H30/9/18 広島大学教員措置方針

【条件等】

- 1) によれば、平成 29 年時の数値として、以下が挙げてあります。

1. 教授 563 人
2. 准教授 425 人
3. 講師 110 人
4. 助教 338 人
5. 助教（労基法雇用）90 人
6. 特任教員等 152 人

計 1678 人

※相田理事により前年の意見交換会でご説明がありましたように、現状、上記 1.（教授）を頂点にした逆ピラミッドの人員構成について、平成 32 年 4 月の審査採用者からテニユアトラック制度を導入し、若手の増員、ピラミッド型の人員構成を目ざすとのことです。（年間の定年退職者数、1 %削減指数を踏まえたものを提示ください。その他の減員要因があれば挙げてください。）

3. 今回ご提示の改定案について具体的項目への質問

- (1) 資料（大学の付番 7）「教授へのパスを持つテニユアトラック准教授制度の利点と課題」

教授ポストの特性がわからない。教授へのパスを持つ准教授 TT とはどんなものか。例えば、教授を採用する際に、公募時に年齢が若い等でいきなり教授にせずに准教授として採用することはあると思われるが、そのあたりをどう考えられるのか。

- (2) 資料（大学の付番 8）

・黒点 3 つ目：このことにより男性准教授の昇任（牽引昇任のみにより）は国外トップレベルでないとならなくなったと読める。広島大学では実質難しいのでは。その状

況下、男性准教授が上に上がれないのはいつまでか。その理由は。

・黒点 5 目：「領域長」は誰になるかで大問題。社会研では国際協力、法、経とあるが、他分野のことはわからない。国際協力は事務系の方が長になっている。状況を知らないため、点数のみで選択することが目に見えるがそのあたりはどのように考えられているのか。したがって、領域推薦（案）をやめて部局長推薦を残すようにしてほしい。

（3）資料（大学の付番 9）

ア．「自己推薦の人事選考委員会設置の見直し」について

学術院会議はすべてのメンバーから選ばれていないため偏りがでる。人事選考委員会に専門性がない。そのあたりはどのように考えられておいでか。

イ．「テニュアトラック制度」について

- ① 教授をいきなり教授で採用となると、専門性によっては採られる人が限られる。公募の間口が狭まる。このあたりの選択は部局任せにできないのか。
- ② （下段）「准教授テニュアのパスを持つテニュアトラック准教授については新テニュアトラック制度が開始したばかりであることと、中堅・若手教員の人事の場合、テニュアトラックとしたい業績の実例があることから、現行制度を継続することとする。」については反対。准教授テニュアのポストについてはテニュアになるための TT 准教授という準備期間は不要では。

（4）その他

ア．自己推薦による学内昇任が大幅に減少した理由について、文書からは「本来の自己推薦の導入趣旨に合致しないと思われる申請が多数出ている」からであるとしているように読めるが、この「本来の自己推薦の導入趣旨」は募集要項等に明示されておらず、それを審査の際の基準として用いるのは透明性に欠け、適正手続きに反すると思われる。どうお考えか

イ．「教員の選考は国際公募を原則」と言いながら、学内の大半の意思決定過程はもちろん、情報伝達においてさえ、外国人教員は実質的に排除されている。それゆえ、学内昇任においても、日本人教員による強力な支援がない限り昇任の機会は実質的に与えられていないと言ってよいと思うが、入り口だけ「国際」と言っている広島大学の中身にほころびが出ているのではないか。どういう配慮をするつもりなのか。

ウ．テニュアトラック採用であることによる候補者の辞退や公募の不調の「調査」が報告されているが、「応募者が 3 名以下の公募比率」を見ても公募の不調の状況

などはわからない。問題は応募者の「質」であり、優秀な研究者や教員はほとんど応募してこない、ということだ。優秀な研究者ほどより安定的な研究環境を求めること、無意味に競争的ではなく協力的な環境を求めていると考えるが、そのあたりはいかがお考えか。

エ. 他大学転出者数の増減は 2017 年度以前の数字と見比べないと意味がない。以前の数字を示してもらいたい。

オ. 「上位職のテニユア審査の受審が可能なテニユアトラック教員」を「学内昇任の対象外とする」ことには、当該教員への不利益になると思われるため、反対する。

カ. 「牽引教員」の定義では「AKPI スコアにおいて上位 10%以内に位置する教員」と、AKPI を用いている。しかし、昇任人事が教員評価の一部であることを考えると、これは「AKPI は個人評価には用いない」という大学執行部の公約に反する。これまでの「牽引教員人事」は現職教員の評価ではないうえ、特殊でほとんど生じず、また執行部主導の人事、ということで消極的に容認されてきたかもしれないが、現職教員を対象とした昇任人事に「牽引教員」の基準を使うことは、上記理由から許されないと考えるが、いかがか。

以上